【1面より】　演説会は、四国で初めてですが、なぜ香川県なのでしょう？

中谷】総選挙が自民党総裁選挙の直後に行われる可能性がでてきました。四国は、全国11ブロックのうち、定数が最も少ない６議席。白川さんの出身県である香川県が、前回の四国比例の得票を２倍にし、４万票を獲得することが、四国比例で悲願の議席奪還へ決定的な意味を持つからです。

Q】９月16日と言えばちょうど自民党総裁選挙の最中ですね。

中谷】いまテレビも新聞も、自民党総裁選挙や立憲民主党代表選挙などの報道ばかりです。そういう中で、本当にくらしや平和がどうなるか、政治を変えるためには何が必要なのかを、党員、読者、後援会員の方はもちろん、幅広い方にしっかり聞いてもらいたいと思います。

どんな問題に対しても日本共産党がその答えを持っていることや、「共産主義には自由がない」などの疑問にも“すばり”とこたえてくれます。

Q】演説会の後の懇談会とはなにでしょうか。

中谷】総選挙に勝利するとともに、さらに日本と日本共産党の未来をひらくためには、日本共産党を強く大きくする必要があります。演説会参加者のみなさんとの懇談をつうじて日本共産党に加わってもらいたいですね。田村智子委員長とも身近に語ることができます。

Q】後援会のみなさんに一言を。

中谷】今度の総選挙で比例の４万票をかちとるためには、日本共産党自身が力をつけて元気いっぱいたたかうとともに、後援会のみなさんの力を借りることが絶対に必要です。地域やいろいろな分野ごとに得票目標に見合う後援会を組織することが必要です。演説会を後援会づくりの弾みにしてほしいと思います。

シリーズ「わが町は今」
高松市議　岡田まなみ

高松市においては「にぎわい創出」を謳い文句に、中央公園再整備（13億円）や競輪場再整備（75億円）、県立アリーナ周辺の大型開発に市民プール跡地や中央卸売市場再整備にも企業が加わり、巨大開発が進められようとしています。また国が主導し、高松環状道路（2200億円～4600億円）の計画もあり、サンポート高松地区の一大開発と関連性を持たせながら、莫大な税金を投入していく計画です。

巨大開発の一方で、高松市は2021年12月、財政難・老朽化を理由に、3万2千筆の存続署名を無視して、強引に市民プールを廃止。現在、市民プールの跡地（県所有）を、県・市・地元銀行等が企業に売却しようとしています。

8月26日、市民プールの存続を求める会・民主市政をきずく会・党市議団は大西市長に、「県に市民プールの跡地を売却しないよう求めると共に、子どもたちのために市民プールを大規模修繕して再開するよう求める申し入れ」を行いました。大事な公共施設・用地を企業の儲けのために勝手に売却するなど許せません。

また、党市議団はこの間、「中央公園の樹木を守る会」の皆さんと力を合わせて、「中央公園の樹木を伐採するな！中央公園を企業の儲けに使うな！」と議会で訴えてきました。

会の方と交流するなかで「共産党が好きになった。比例は日本共産党に」と共感が生まれました。

競輪場75億円を考える会の代表者の方は、運動を通して共産党を知ってくれました。亀中支部とも協力し「ギャンブル場に子ども達や青少年の施設を持ち込むな」の署名運動に力を合わせています。

市政での運動が、国政での日本共産党の熱い支持につながると実感しています。引き続き、皆さんの声を届けて頑張ります。

平和憲法を生かす香川県民の会が街頭宣伝　8・15敗戦の日

日本の敗戦79年を迎えた8月15日、平和憲法を生かす香川県民の会は県内の駅頭など8カ所で宣伝をしました。

高松市の中心商店街では約40人が、「武力で平和はつくれない」と解説したビラ入りのポケットティッシュを配布。日本国憲法を生かし武力ではなく対話や外交による平和構築を訴えました。

田辺健一日本共産党東部地区委員長が「岸田政権で戦争する国づくりが進んでいるが、台湾有事には日本の自衛隊がアメリカの先兵となって戦争に向かう合意が結ばれている。外交抜きの大軍拡が暮らしや経済を押しつぶそうとしている」とのべました。岡田・藤沢の両高松市議も参加しました。

会共同代表の饗場和彦徳大学教授香川憲法会議の十河事務局長、みどり・香川の太田あゆみ高松市議、立憲民主党の鈴木美香土庄町議、護憲香川県民連合の小野事務局長、社民党の溝渕裕子三木町議が訴えました。

白川氏　香川県医労連と懇談

日本共産党の白川よう子衆院四国比例候補は8月28日、高松市で香川県医労連主催の「医療現場の実情を語り合う懇談会」に参加。9人が参加しました。

「2024年に改定された診療報酬の中身では、物価高騰を補うこともできず病院は赤字経営。給料に回す原資もなく、給料は上がらず、ボーナスや退職金も減らされ、人員流出は後をたたずに医療崩壊です」と実情を訴えました。

「地域包括ケア病棟ではコロナ後に病床数が減らされ新しい感染症が出た時に対応できない」、「人口減や経営悪化という言葉が先に出て、ある国立病院では忌引をとれないほど人員が足りない厳しい状況」との声も出ました。

白川氏は、国立病院機構が積み立ててきた積立金も軍事費に割り当てられるなど、国の政策を批判。「政治を大本から変え、診療報酬をあげて、患者に負担がかからずに、病院経営が成り立つような医療政策にしなければならない」とのべました。

懇談会の最後に「診療報酬の再改定」の県への申し入れと、医療分野後援会結成の提案と承認がなされました。

勇気りんりんエッセイ
四国ブロック国政対策委員長　白川よう子

ノロノロ台風10号は行き先も定まらず、数日間にわたって影響を及ぼし、各地に爪痕を残しました。早明浦ダムは貯水率が一気に100％になり、香川県の取水制限も解除されました。一晩でダムの約半分の水が貯まったことに驚きを感じながら、大きな災害にならないよう嶺北方向の空に願いました。

徳島、高知、香川で次々と新しい党員を迎えた先週、週末には高知県と香川県で後援会総会も行われました。高知では仁比聡平参議院議員が講演。5月に逝かれた妻さんへの思いも語られました。児童相談所の所長だった妻さんの、より良い社会にしたいと奮闘されてきた姿に思いを馳せながら、志を引き継ぎ頑張ることを誓いました。

香川県の後援会総会は市田忠義副委員長が、情勢の特徴と党の役割を縦横に語ってくれました。とりわけ党員の人間像について、市川正一さんや、小林多喜二さんらの生き様から語ったくだりは、私も思わずもう一度入党したいくらいに。

各地からの活動報告は、市田さんが語った「困った人を放って置けない、強くて優しい人たちの集まり」という言葉を体現するかのような活動が、後援会の活動の中に大きく息づいていることを実感させられました。総選挙までに各地で地域後援会の立ち上げや、再決起へ力を尽くします。

私からは、四国を回りはじめてはや8年。出会った一人ひとりから寄せられた思いを深く受け止めて、四国から必ず比例の議席を皆の力で勝ち取ろう！と決意を述べました。

▼郷土かがわを戦場にするな！連絡会▲
9月署名提出へ運動

平時から自衛隊が民間の空港・港湾を使えるようにする「特定利用空港・港湾」に香川県の高松港を岸田政権が選定するなか、県知事に選定の受け入れ撤回を求める署名が行われています。9月提出に向け取り組んでいるのは「郷土かがわを戦場にするな！県民連絡会」。change.org」のオンライン署名もあります。QRコードまたは、「高松港・署名」で検索すると署名できます。

連絡会は署名の主旨として「選定を受けた高松港は国際法上、他の民間港湾と区別されます。軍事的に位置づけられた施設は『攻撃目標』となります。『震災対策にメリットがある』などと一面だけを協調し、県民への丁寧な説明もなく、県が受け入れを強行したことは『県政の主人公は県民』の立場からも許されません」などと呼びかけています。